伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

平成２９年２月１６日
九州大学キャンパス計画室
福利厚生施設WG

１．調査の目的

伊都キャンパスでの学生生活に関する意向調査を実施し、その結果を基にして、伊都キャンパスにおける学生生活支援施設（食堂・課外活動施設等）の運営及び学生寄宿舎の整備等への活用並びに周辺地域での学生用宿舎の建設促進を図るためにアンケートを実施するもの。

２．調査対象

伊都キャンパスに通学する学生 約9,500名

・学部１年生
・理学部、工学部及び２１世紀プログラム課程の２年次以上の学生（工学部建築学科を除く）
・比較社会文化学府、地球社会統合科学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、工学府、システム情報科学府及び統合新領域の大学院生

３．調査期間

平成２８年１０月１７日～平成２８年１１月１７日

４．調査方法

学生ポータルシステム、掲示等にてアンケートの周知・協力依頼を行い、対象学生自身が九州大学e-ラーニングシステム(moodle)にアクセスし、Ｗｅｂ上でアンケートに回答。

５．回答結果

（１）回答数　　1,131人（回答率11.9%）
（２）回答者の所属　学部学生 911人（80.5%）　修士課程 149人（13.2%）
　　博士課程 63人（5.6%）　その他 8人（0.7%）
（３）回答者の性別　男性 796名（70.4%）　女性 335名（29.6%）

６．アンケート回答結果の概要

（１）通学について

①　通常時の通学方法は、自転車が１番多く31.6%（昨年度:25.4%）、次いで徒歩のみ15.0%（昨年度:11.9%）、バイク13.4%（昨年度:16.8%）、昭和バスのみ12.8%（昨年度:12.5%）の順となっており、昨年度と比較して自転車と徒歩の割合が高まった。伊都キャンパス近郊に住んでいる学生の割合が高まっていることが要因として考えられる。

　また、今回初めて調査した雨天時の通学方法は、昭和バスのみ29.4%、徒歩のみ23.3%の順となり、自転車6.5%、バイク7.9%の割合は低かった。通学にバスを利用する割合は、通常時は32.4%、雨天時は54.6%であり、雨天時は通常時の約1.7倍となっている。

②　伊都キャンパスへの通学に際し、利便性を向上させるための希望として、「鉄軌道系の導入19.6%（昨年度:19.4%）」が１番多く、次いで「夜遅くまでのバス運行18.1%（昨年度:22.1%）」、「土日祝日におけるバスの増便等の充実17.2%（昨年度:17.3%）」、「平日におけるバスの増便等の充実16.6%（昨年度:15.8%）」となっており、昨年度と同様の結果となった。

③　年間を通じての平均的な登校時間帯は、１限目開始前である8:00～8:40が最も多く44.7%（昨年度:36.7%）、次いで、8:40～10:00が25.7%（昨年度:26.0%）、10:00～10:30が12.9%（昨年度:17.2%）と続き、95%以上の学生が2時限目開始前に登校している。

　また、平均的な下校時間帯は、4限目終了後である16:20～17:00が最も多く32.0%（昨年度:26.8%）、次いで、19:00～21:00が17.0%（昨年度:13.3%）であるが、その他はサークル活動や研究・実験終了後の17:00～22:00の間に分散している。

（２）住居について

①　現住所については、九大学研都市駅周辺20.0%（昨年度:16.2%）の割合が最も高く、次いで、伊都キャンパスのドミトリー・協奏館12.6%（昨年度:11.9%）、周船寺駅周辺12.2%（昨年度:10.4%）、元浜・九大新町11.8%（昨年度:8.8%）と伊都キャンパス近郊に住んでいる学生が半数以上で割合が高まっている。一方、箱崎キャンパスのある東区から通学している学生は3.4%（昨年度:7.8%）であり、割合は低くなった。伊都キャンパスへの統合移転が進んでいることが要因として考えられる。

②　アパート・マンションの決定にあたっては、家賃18.5%（昨年度:23.3%）を重視する回答が一番多く、次いで、バス・トイレの別11.9%（昨年度:11.8%）、インターネット設備11.9%

（昨年度:12.9%）、広さ11.5%（昨年度:11.7%）と続き、昨年度と大きく変わらなかった。

③　自宅周辺に必要な施設としては、スーパー18.3%（昨年度:21.3%）が一番多く、次いで、飲食店12.5%（昨年度:13.1%）、銀行・郵便局10.0%（昨年度:12.5%）、コンビニ9.7%（昨年度:12.6%）と続き、生活面での利便性が重視されている。

④　居住地の周辺環境については、およそ半数（50.4%）が満足しており（昨年度:47.3%）、理由としては、スーパー・コンビニの近さ、交通の便、大学に近いなどがあげられている。

（３）キャンパスでの生活について

①　朝食については、自宅で食べるが56.4%と最も多く、昼食については、大学内の食堂が70.8%（昨年度:54.9%）と最も多い。また、夕食については、自宅で食べるが54.2%（昨年度:53.5%）と最も多い。

②　伊都キャンパスとその周辺の施設に「不満である」及び「非常に不満である」の割合が58.6%であり、今後のキャンパス整備や周辺まちづくりにより、満足度を高めることが課題である。

④　キャンパス内に必要な施設については、「休憩したり友人達と談笑できる場所」が24.0%が最も多く、「駐輪場や駐車場」が23.1%、「気軽に体を動かせる場所」19.5%であった。

⑤　キャンパス周辺に必要な施設については、「スーパー」が18.7%と最も多く、次いで「飲食店」が15.0%、「娯楽施設」が10.5%であった。

⑥　サークル活動の場所は、伊都キャンパス及び周辺が48.4%で最も多く、アルバイトの場所は、福岡市西区が24.5%で最も多く、次いで福岡市中央区10.8%であった。

（４）その他の意見（自由記載欄）について

①　記載された全ての意見を「交通」「学内施設」「周辺環境」「その他」に分類した結果、「交通」が33.2%、「学内施設」が35.8%、「周辺環境」が27.2%、「その他」が3.8%であった。

② 「交通」については、バスの運行本数を増やしてほしい等の運行本数に関する意見6.9%が最も多く、運賃を安くしてほしい等の運賃に関する意見5.9%、九大学研都市駅と伊都キャンパスの間を電車で結んでほしい等の鉄軌道系導入に関する意見4.8%であった。

③ 「学内施設」については、駐車場・駐輪場を増やしてほしい等の駐車場・駐輪場に関する意見12.4%が最も多く、「周辺環境」については、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしい等のスーパーに関する意見15.0%が最も多かった。

自由記入欄には、447名（回答者の39.5%）の学生からたくさんの意見をいただきました。伊都キャンパスでの学生生活がより良いものになるように、いただいた意見をしっかりと受け止めて、今後の取組みに活用したいと思います。

交通については、昭和バスや西鉄バス、糸島市コミュニティバスの各事業者と協議して、バス運行の改善に取り組んでいるところです。今後、伊都キャンパスと九大学研都市駅を結ぶ新たな幹線道路（学園通線）の開通（平成２９年春予定）や、伊都キャンパスへの統合移転事業完了（平成３０年度）に合わせて、運行内容の充実を図ります。

学内施設については、伊都キャンパスへの統合移転事業を進めている最中であり、今後、教育・研究施設のほか、課外活動施設についても整備が進められているところです。意見の多かった駐車場・駐輪場については、限られた予算の中で可能な限り駐車場や駐輪場を整備する取組みを進めています。

周辺環境については、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしいとの意見を多くいただきました。キャンパス周辺の関連団体とのまちづくりの取組みを通じて、スーパーの立地要望を伝えるなどの取組みを進めていきます。